

「小学生による身近な生き物調査（ホタル）」報告書

姫路市 環境政策室

子どもたちが身近な生き物の生育状況を把握するとともに、生き物の生育環境を守り育てていくことの大切さを学習するため、「小学生による身近な生き物調査」としてホタルの調査を実施しました。

1 調査期間

平成 19 年 6 月 1 日（金）～ 6 月 29 日（金）

2 調査方法

市内の小学 6 年生が調査員となり、自宅周辺の河川、水路、ため池などの水辺でホタルを見つけた場合に、小学校区のマップにホタルシールを貼付するという方法で調査を行いました。

※ ホタルシール貼付基準

ホタルシール大 	多かった（20 匹以上）
ホタルシール小 	少なかった（20 匹未満）

3 調査結果

(1) ホタルマップ

別添のとおり

(2) 概要

今回の調査の結果、市町合併により新たに加わった北部 3 町（夢前町、香寺町、安富町）に特にたくさんのホタルがいることが分かりました。旧姫路市域では、林田、太市などの西北部地域、船津、山田、豊富、谷内、谷外などの東北部地域に多く生息しており、これらの地域には豊かな自然が残っているといえます。

平成 4 年（1992 年）、市内の小学 6 年生にホタルの生息状況についてアンケート調査を実施したときには、手柄、荒川などの中部地域や、大塩から英賀保にかけての南部地域などでもホタルが見られていましたが、今回はこの地域ではホタルは見つかりませんでした。

4 まとめ

合併町については前回の調査データがないため結果の比較はできませんが、旧姫路市域では、この 15 年の間にホタルの生息地が大幅に減っていることが分かりました。

一般的なホタル減少の要因としては、家庭からの排水による水質汚濁、宅地開発や護岸工事等による生息環境の消失などが挙げられます。

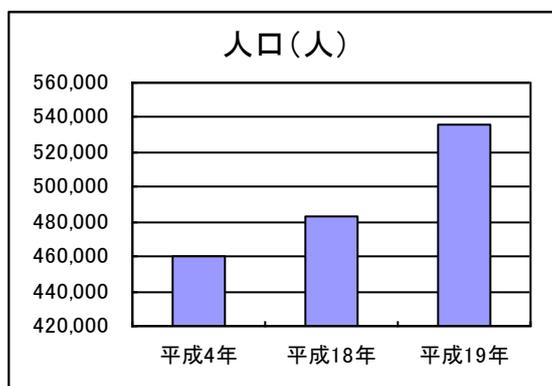
本市では、計画的な公共下水道等の整備により、平成 4 年（1992 年）頃に比べ水質は改善されていますが、郊外における宅地開発が進んだことによって、ホタルの生息に適した環境が減少したのではないかと考えられます。

一度失われた自然はなかなか元には戻りません。身近にホタルがいる環境を将来の世代に引き継ぐためにも、子どもの頃から環境について関心を持ち、市民一人ひとりが環境に配慮したライフスタイルを実践していくことが、今後より一層重要になります。

最後になりましたが、今回の調査にご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

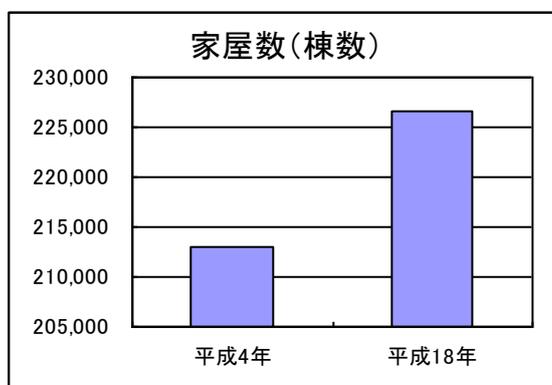
〈参考 1：姫路市人口・世帯数〉

年次	人口（人）	備考
平成 4 年（1992 年）	460,627	10 月 1 日推計
平成 18 年（2006 年）	482,543	3 月 1 日推計
平成 19 年（2007 年）	536,256	10 月 1 日推計



〈参考 2：姫路市家屋数〉

年次	家屋数（棟数）	備考
平成 4 年（1992 年）	212,992	1 月 1 日
平成 18 年（2006 年）	226,640	1 月 1 日



〈参考 3 : 河川 BOD75%水質値の平均値〉

年次	市川 (mg/l)	夢前川 (mg/l)	大津茂川 (mg/l)	備考
平成 4 年(1992 年)	1.2	1.3	4.7	
平成 18 年(2006 年)	1.0	0.9	1.5	

※ BOD75%水質値とは・・・

水質汚濁の主な指標である BOD（生物化学的酸素要求量）について、年間の日間平均値の全データをその値の小さい順から並べた場合の、 $0.75 \times n$ 番目（ n は日間平均値のデータ数）の値のことです。数値が高いほど水の汚れが多いことを示し、 5mg/l 以上になると魚がすみにくくなります。

